

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-151	13-123	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Neurocognition in 1-month-abstinent treatment-seeking alcohol-dependent individuals: interactive effects of age and chronic cigarette smoking. 治療を望むアルコール依存患者に1ヶ月の禁酒療法を行った後の認知機能：年齢および慢性的な喫煙の相互作用		
執筆者		
Durazzo TC, Pennington DL, Schmidt TP, Mon A, Abé C, Meyerhoff DJ		
掲載誌		
Alcohol Clin Exp Res. 2013 Oct;37(10):1794-803. doi: 10.1111/acer.12140.		
キーワード		PMID
年齢, アルコール依存, アルコール使用障害, 喫煙, 認知機能		23682867
要 旨		
<p>目的： 高齢や喫煙は独立してアルコール依存症の治療希望者における様々な神経認知機能の面において悪影響を与えることが知られている。しかし禁酒後早期におけるアルコール依存患者の神経認知機能への年齢および喫煙といった潜在的な交絡要因との関連については十分に検討されていない。</p> <p>方法： この研究では健康な非喫煙群(nvsCOM; 39人)を対照として、非喫煙者(1ヶ月の禁酒治療後)(nvsALC; 30人)、以前の喫煙者(1ヶ月の禁酒治療後)(fsALC; 21人)、現在の喫煙者(1ヶ月の禁酒治療後)(asALC; 68人)に対する包括的な神経認知機能評価を行い比較した。機能評価は、認識の効率、実行機能、微細運動技能力、知能、学習と記憶、実行速度、視空間認知、作業記憶について行った。参加者の年齢は調査時に26～71歳だった。</p> <p>結果： asALCはnvsCOMに比べて視空間認知、聴覚性言語記憶、認知効率、実行機能、実行速度、微細運動技能力が年齢と強く関連して低下した。fsALCとasALCの両群はnvsCOMとnvsALCの両群と比べて多くの領域で機能低下が見られた。またnvsCONとnvsALCにはすべての機能において統計学的な差異はなかった。ALC群(禁酒療法後のアルコール依存者)の機能評価点は、高値から低値まで差異が大きかった。臨床的に問題となる機能低下は視覚学習・視覚記憶・巧緻運動機能低下が255のALC群でみられた。アルコール摂取量はALCの神経認知機能と明らかな関連はなかった。</p> <p>結論： 喫煙者のアルコール依存症患者で禁酒一か月後の神経認知機能は健康な非喫煙群と比べて多くの項目において年齢依存性の低下がみられた。軽度であるが臨床的に問題となる認知機能低下はアルコール依存患者一般に認めた。これまでの研究の成果に加えて本研究の知見を合わせるとアルコールや薬物の乱用の治療時には禁煙を強く勧めるべきであることが示唆された。</p>		